

会 議 録

会 議 の 名 称	令和7年度 第5回小川町地域公共交通活性化協議会	
開 催 日 時	令和8年3月27日(金) 開会時刻 午後13時30分 閉会時刻 午後14時30分	
開 催 場 所	小川町立図書館2階 視聴覚ホール	
出 席 者	役職名	氏名
	会長	尾崎 晴男
	副会長	小暮 亮治
	委員	中村 雅彦
	委員	大山 博
	委員	小熊 和久
	委員	山岸 実
	委員	田端 健二
	委員	近藤 隆俊
	委員	五十嵐 康博
	委員	吉田 和也
	委員	内田 弘
	委員	安野 育男
	委員	石川 勝
会 議 の 議 題	<p>(1) 小川町地域公共交通計画の策定について</p> <p>ア パブリックコメントの実施について</p> <p>イ 小川町地域公共交通計画(最終案)の検討</p>	
会 議 の 公 開 又 は 非 公 開 の 別	公開	
会 議 の 非 公 開 の 理 由	-	
傍 聴 人 の 数	2人	
発 言 の 内 容	別紙「発言の要旨」のとおり	
会 議 資 料	別紙のとおり	
事 務 局	都市政策課 都市政策担当	
議 事 の 確 定	確 定 年 月 日	令和8年3月31日
	記 名 押 印	役職名 会長 尾崎 晴男 ㊟

発言者	発言の要旨
	<p>(1) 小川町地域公共交通計画の策定について</p> <p>ア パブリックコメントの実施について</p> <p>イ 小川町地域公共交通計画（最終案）の検討</p>
中村委員	<p>資料4のP15の公共交通の将来像図について、修正によってバス路線名が追加されたが、県道名とバス路線名が並んで記載されており、分かりづらいと感じる。また、県道名の記載について、表記の混在が見受けられる。主要地方道を示す（主）と記載されている路線もあれば、すべての県道を包括する（県）と記載されている路線もあるため、表記の統一を図ったほうが良い。</p>
事務局	<p>ご指摘のとおり修正させていただく。</p>
尾崎会長	<p>道路について、表記を県道に統一するのか、あるいは主要地方道と一般県道の書き分けをするのか認識を合わせた方がよい。</p>
事務局	<p>東松山県土整備事務所の管轄路線のため、県土整備事務所に確認を行い、表記の統一を図る。</p>
尾崎会長	<p>ご指摘いただいた内容について修正をしていただき、最終稿として3月31日に小川町が公表することについて協議会として承認するかお諮りしたい。</p>
	<p>- 全委員承認 -</p>
	<p>その他（今後の取組の方向性について等）</p>
五十嵐委員	<p>デマンドタクシーの利用に関するアンケート調査から買物を控える割合が高いことが明らかになった。住民の買い物環境の改善や利便性向上は重要であり、対応策として移動販売やデマンドタクシー料金の見直し等があげられているが、それぞれの効果を確認する観点から、同時に行うのではなく段階的に検討することも必要ではないかと考える。料金見直しによってデマンドタクシーが便利になることで、買い物利用の増加が見込まれるため、まずは移動販売がデマンドタクシーに与える影響を確認した上で、料金体系を見直すことも一つの方法と見るが見解をお聞きしたい。</p>
事務局	<p>スケジュールについて、各対応策を同時期に行うことは想定しておらず、協議会や分科会等で議論しながら進める考えである。移動販売については、関係各課との調整を行い導入可否の検討を行う。デマンドタクシー料金体制の見直しを対応策に記載した</p>

	理由としては、昨年実施したアンケート調査の結果や、令和8年3月よりタクシー料金が値上がりしたことが背景にある。料金体系を変えた際に、町の負担や利用者の負担がどの程度変わるのか検証を行い、導入のタイミングを適切に判断していきたい。
五十嵐委員	買い物支援については民間事業者が担うことになると思うが、財政と利便のバランスを保ちながら持続可能な仕組みを考える必要がある。デマンドタクシーの取組を充実させることも必要だが、サイクルアンドライド等による既存の公共交通の利用促進施策についても推進する必要がある。
吉田委員	竹沢地区では、小川町社会福祉協議会の協力により2月から移動販売を始めている。本対応策について、竹沢地区の事例と整合性や連携は図れているのか。竹沢地区の移動販売では、生鮮食料品の取扱いはなく、第2・第4月曜日の15分間の販売時間で、毎回10名から20名程度の買物客が来ている。 また、寄居町では1回300円でタクシーを利用できる。他地区事例を参考にしながら、本町のデマンドタクシーにおいても料金見直しを検討できないか。
事務局	移動販売については、竹沢地区の事例も踏まえて設定したものである。移動販売を試行的に導入する場合は、地区の居住者の意見を聞きながら進めることが重要だと考えている。 また、本町にデマンドタクシーを導入する際も、他市町で導入されている事例を参考にした経緯がある。本町と寄居町でデマンド交通の利用料金に差が出る大きな要因は、本町は個人の輸送に特化した個別輸送型であることに対し、寄居町などでは複数人による乗り合い型を採用しているためである。個別輸送型と乗り合い型では、国の補助金など財源確保の手段も異なる。利用料金を安くするために乗り合い型を採用した場合、利便性が低下する可能性も考えられるため、協議会としても慎重に検討する必要がある。
尾崎会長	他地区のデマンドタクシーの事例を参考にしながら、最適な方法を検討することがよい。
大山委員	当社の乗り合いバス、路線バスの上限運賃認可申請について資料にてご説明させていただく。当社では小川町で2路線運行しているが、2014年から2024年までの10年間に於いて、みどりが丘線の利用者は19万1140人減少（減少率37.8%）し、小川パークヒル線は2万3903人減少（減少率15.7%）した。資料4のP39に計画の目標値を記載しているが、利用者の減少が続き、収支状況がかなり厳しいことをご理解いただきたい。 当社は7月中旬に運賃改定を実施する予定である。本町を走る2路線の運賃については、改めてご報告させていただく。申請理由としては、少子高齢化、人口減少による

	<p>利用者の減少、乗務員不足をはじめとする人件費の高騰、燃料の高騰、安全対策、車両の費用等によるものである。</p>
<p>小熊委員</p>	<p>当社の現状について、乗務員不足が喫緊の課題となっている。乗務員不足の解消に向けた待遇改善等により乗務員不足はやや解消されたが、人件費や燃料費、車両維持費の高騰などを受け、関東運輸局に上限運賃認可申請を提出した次第である。熊谷路線の協議会において路線バスの運行に係る補助金をいただいているが、依然として厳しい状況である。</p>
<p>尾崎会長</p>	<p>先ほどの報告について、小川町においても喫緊の課題であると認識している。バス路線の維持についても対応策を検討し、来年度の協議会で協議できると良い。</p>
<p>事務局</p>	<p>バス路線の維持についてもこの協議会で協議させていただきたい。町民の貴重な移動手段として、町内の既存の公共交通の維持に向けた支援策を考えていく。</p>
<p>安野委員</p>	<p>小川町身体障害者福祉会は、高齢化や会員の減少等により令和8年3月31日をもって解散することとなった。今まで皆様方の建設的なご意見やお話等をいただき、勉強させていただいた。結びに、皆様方のご健勝と、本協議会の益々の飛躍をご祈念申し上げ、結びの言葉とさせていただきます。本当にお世話になりました。ありがとうございました。</p>
<p>事務局</p>	<p>安野委員、今まで本当にありがとうございました。</p> <p>以上をもちまして、本日の協議会を終了とさせていただきます。長時間にわたりご協力いただき、誠にありがとうございました。本日はこれにて散会とさせていただきます。</p>